

令和4年度 学校評価

長崎市立西坂小学校

1 教育目標

「人間性豊かな、心身共に健康で自ら判断し、行動（表現）する力を持った、たくましい子ども」の育成

2 学校経営方針

- 1 児童や地域の実態を踏まえて学校教育目標や学年（学級）目標を設定し、その実現に向け、教育課程を編成し、PDCAマネジメントサイクルに則って計画的に実施する。
- 2 児童の心身の健康を確保し、児童が安心して生活し、学習できる居場所づくりに努める。
- 3 児童一人一人の良さや可能性を尊重し、知・徳・体の調和のとれた心豊かな人間形成に努める。また、一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育を行う。
- 4 一人一人の教師が教育専門職としての使命感と指導意欲をもち、資質及び指導力の向上に努める。また、高い倫理観を保持し、服務規律を遵守する。
- 5 校務分掌が機能し、職員相互の人間関係が信頼で結ばれ、共通理解・共通実践を行うことで、生き生きとした教育活動ができるようにする。
- 6 校地、校舎、施設等を整備し、安心安全で、清潔感あふれる教育環境づくりに努める。
- 7 地域の特色を生かした教育活動を展開し、保護者や地域の方々との相互理解・相互協力の下に、諸活動の成果を上げる。
- 8 毎日元気に子どもたちの前に立ち、子どもたちの未来につながる力を育む教育を行うために、働き方を見直し、校務を効率的に推進する。

3 重点目標

【学校の合い言葉】あいさつ・返事・ありがとう
 「あいさつ」をすると人とつながることができます。
 「返事」をすると、その人の決意が伝わります。
 「ありがとう」の言葉で、感謝の思いを届けることができます。

4 自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児童生徒	保護者	教職員	
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	92	92	100	校務の縮減・効率化等の業務改善については、数年前からの働き方改革における積極的な業務改善を行ってきたのに比べると、今年度は、新しい取組が少なかったことで肯定的割合が低かったと考えられる。引き続き、機能性を高めるとともに業務の標準化を図っていかなければならない。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	94	93	100	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			92	
	業務の改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			69	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	92	92	100	今年度も昨年度に引き続き、コロナ禍にあり、全職員で子供たちや保護者に寄り添うことの共通理解のもと、努めていった。これまで生活指導上の大きな問題もなく、落ち着いて学校生活を送れていることに安心している。保護者の挨拶の評価が伸びた背景としては、昨年度から、学校の重点目標に校長が掲げたことで、児童、保護者に浸透していったものと考えられる。今後も、人と人のつながりが希薄化している現在、社会性を身に付ける一歩として挨拶の大切さについて、周知徹底を図っていく。 いじめ防止対策については、学校での日々の取組を学校だより、ホームページ等で、継続して周知を図ったことで保護者の評価が高まったと考えられる。
		挨拶をよくしている	91	90	100	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	94	83	92	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	94	88	100	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	92	95	100	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	99	93	100	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	100	88	100	
特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	98	96	100		
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	99	100	100	GIGAスクール構想における一人一台端末の整備と家庭への持ち帰りが日常になったことで、家庭学習の習慣化は高まっていると感じるが、デジタルの使用については、教職員も保護者も課題を感じるところであり、来年度に向け、改善が急がれる。 これからの社会環境の変化に対応できる資質を育てていく上でキャリア教育の充実を図る必要がある。
		学習指導課程	わかりやすい授業を行っている	98	98	
	キャリア教育	家庭学習の習慣が身に付いている	92	83	100	
		将来の自立に向けて適切に指導している	88	83	100	
		長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	97			

健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	96	98	100	3年前からのコロナ禍にあって、児童の体力の向上が昨年度からの課題であったが、今年度の重点的な取組が浸透し、意識は高まっている。しかし、数値として体力が向上しているところには至っていない。今後も継続して取り組む必要を感じている。 早寝・早起き・朝ごはんについては、登校時刻が遅くなっている児童が数名いる。家庭と連携を図っていかなければならない。
	体力向上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的な生活習慣)が身に付いている	77	83	100	
		体力向上に努めている	93	91	100	
	食育	食に関する教育活動を行っている	89	95	100	
信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	100	98	100	本校は地域との連携が十分で、定期的に集団下校を行っていることで、安全管理については、一定の評価を得ている。しかし、コロナ禍により地域と連携した行事が、延期や中止を余儀なくされたことで、児童のPTA・地域との連携の評価が極端に下がったものと考えられる。今後、withコロナにおける行事の見直し・復活を考えていかなければならない。
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	100	100	100	
	PTA・地域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	49	98	100	
	職員資質向上	研修が充実し、資質が向上している			100	
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	98	100	100	教育環境については、一定の評価が得られた。今後も、施設の老朽化にあって効率化を図りながら環境整備に努めていく。
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			100	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

- 今年度もコロナ禍にあっていような要因が加わり、児童が不安定になる恐れがある中、教職員が子供たち一人一人の児童理解、保護者理解に努めてくれた。休み時間には、児童と一緒に遊ぶ教職員も多く、児童の心の安定につながっている。
- 教育活動のあらゆる場面で、学校教育方針を意識した教育活動の推進ができています。特に昨年度から「あいさつ・返事・ありがとう」を合い言葉に、学校全体で取り組んでいることで、コミュニケーション力向上につながってきています。また、喫緊の課題であった体力向上もある程度の成果が見られた。
- 今年度も、あらゆる活動で新型コロナウイルス感染症の影響が出たが、今後は、社会の動向を見ながら、学校でできることを探っていかなければならない。今後は、Withコロナでの学校の在り方について教職員で話し合っていく。

6 学校関係者評価

- 信頼される学校のPTA・地域との連携において、児童の評価が、かなり低い。コロナ禍にあって、もちつき、レクゲーム、バザーなど、たくさん行事が中止となったことが原因と考えられる。来年度以降の課題である。
- 学校施設の老朽化は、気になるところである。事故が起こってからでは遅いので、日頃の安全点検と必要な部分の改修工事に早めに取り掛かってほしい。
- 教職員の頑張りが伝わってくる。地域も協力を続けるので、子どもたちや保護者に寄り添い、「チーム西坂」として教育活動の充実を図ってほしい。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

- 西坂小学校は、伝統的にPTA・地域との連携がとれていた学校であるにもかかわらず、子どもたちの評価が下がっていることを考えても、子どもたちの安心・安全が最優先にはなるが、withコロナでできることから活動を再開していかなければならない。
- 学校施設の老朽化に伴い、安全点検が形骸化しないような取組にしていかなければならない。教職員複数体制での安全点検や授業参観・懇談会時にPTAに協力してもらうなどの対策が必要である。危険を伴うような場合は、素早く施設課に連絡を取り、対応してもらう。
- 今後も職員会議、生徒指導連絡会等での情報交換・情報共有の機会を多く設け、子どもたちや保護者に寄り添うスタンスをとっていく。問題が発生した場合も、行動の背景の理解や早期発見・早期対応に努めていく。